

ITER 計画推進策検討委員会（仮称）の設置に関する議論について

平成 15 年 4 月 28 日
核融合専門部会技術 WG

一．ITER 計画に対する国内体制について、幹事会で出された意見

- ・ E D A（工学設計活動）の際には、ITER/EDA 研究協力委員会が設置され、物理および工学の R & D 活動に対し、大学関係者も積極的に参加してきた。しかし、E D A 終了後は大学からの参加が困難な状況にあり、大学関係者の関心が薄くなりつつある。
- ・ 大きなプロジェクトの予算に比して大きくない旅費ならびに研究支援費等によって大きな効果対費用が得られ、活動を活性化できるのであるから、原子力委員会がイニシアチブをとり、大学からも参加できるように提言をしていかねばならない。
- ・ E D A の際には、核融合会議の下に ITER/EDA 技術部会が設置され、国際チームの設計活動を定期的にレビューし、我が国としての意見を出してきた。サイトが決まれば、準備工事に対する検討などに関し、同様の役割をもつ委員会が間違いなく必要になる。
- ・ I T E R の規模になると、研究者だけでなく産業界からの参加が大切になってくるが、そういった意味でも文科省だけでは狭いのではないか。もう少し全体的な立場から提言をする委員会が必要である。

二．ITER 計画推進策検討委員会（仮称）の考え方

1．委員会の目的

国際熱核融合実験炉（ITER）計画については、今後の ITER の建設及び運転に向け、政府間協議が進められているところである。ITER 計画に我が国が参加するに当たって、我が国が ITER を最大限に利用し十分な成果を得ることのできるような施策推進を提言する。

2．調査審議事項

（１）ITER 計画に対する我が国の活動体制に関する検討

（２）その他、ITER を有効利用するために必要となる施策推進に関する検討